



しおか

秋田県琴丘町
2004年 町勢要覧



おいたち

町の往古については明らかではありませんが、宝竜前遺跡や高石野遺跡から発掘される土器・石器には、縄文時代中期から晩期にかけての出土品があり、このころから人々が住みついていたことがうかがわれます。

私たちの町のあたりが、元慶の乱（元慶二年＝八七八年）の蝦夷の拠点のひとつ河北村の範囲とされ、初めてわが国の歴史に郷土が登場していますが、中世にいたっては、桧山安東氏領の南端の拠点として重視され、抗争の舞台となったことが知られています。

近世にいたっては幕藩体制のもとに、山間部の村々は藩の体制に組みこまれた麓村として、平地部の村々は新田開発による農業中心の営みをつづけ、そのなかには八郎湖岸に立地し漁業も併せ営む村や、羽州街道の宿場とされた村など、特色ある歩みをつづけていました。

明治維新以後、行政組織が幾たびか変わりますが、明治二十二年、天瀬川・鯉川・鹿渡が合併した鹿渡村と、上岩川村が誕生します。その後、鹿渡村は昭和七年に町制を施行しましたが、この間、地域の産業・文化に大きな変革をもたらした出来ごととして、明治三十五年の奥羽本線開通と鹿渡駅の開業や、明治四十四年における鹿渡と上岩川間の森林軌道敷設があげられます。

戦後になると、産業経済の急速な進展と生活文化様式の近代化がはかられ、「地方自治の近代化」と「行政の広域化・合理化」をはかるため、昭和三十年四月、鹿渡町と上岩川村の合併による新しい「琴丘町」が誕生して現在にいたっています。

『町のため 町民のため』をめざして

琴丘町長 工藤 喜久男	1
伝説と信仰の山 房住山	2
はねがわ森林公園	3
琴丘・梅物語	4
スポーツ王国	5
祭り・イベント	6 7
ふるさと探訪	8

特産品	9
福祉・保健	10
産業	11
生活・環境	12
まちづくり	13
教育・生涯学習	14
行政・議会	15
ことおか見どころMAP	

KOTOOKA

豊かな自然を守り

豊かな心を育む町

琴丘

町の四大プロジェクトも十一月の総合体育館完成により、ほぼ一段落をしたこととなります。社会資本整備も他町村より早く手をつけたこともあり、これからは維持補修を計画的に進めていく必要があります。

今わが町は紆余曲折を経て山本郡南部三町での合併を目指し、法定協議会に参加しております。平成十八年三月二十日の新町誕生へ向けての一層の努力が求められます。新町になっても琴丘の地域はそのままですし、そこに住む住民も変わりありません。新町においても琴丘が魅力ある地域であるためには、そこに住む住民の“やる気”がなによりも大切で行政は基本的なサービスは別として、そのお手伝いをする役目だと思います。今年（十七年）の正月の仕事始めの挨拶で、私の今年の目標は“海軍五省（至誠に怠るなかりしか他）”ですと言いました。合併までの期間、すべての事業を“町のためになるか、町民のためになるか”を基準にして進めていきたいと思っております。町民の皆様のご支援ご鞭撻をお願いいたします。

『町のため 町民のため』をめざして

琴丘町長 **工藤喜久男**



伝説と信仰の山 房住山

山の循環を感じ、山のエネルギーを享受して、心リフレッシュ。

その昔、幾人もの修験者たちが
房住山を駆け登ったことでしょう

修験者の道場地として栄えた房住山は、多くの伝説に彩られています。峰一円には当時を偲ばせる三十三観音像が点在しており、その穏やかで優しい顔は登山者にやすらぎを与えてくれます。

また、昔の寺房を復元し、新たに建立された房住神社は、登山の安全祈願などに訪れる人が絶えません。

春と秋は一番美しい季節です。木々の彩り、ブナの林をぬって頬つたう日本海の爽やかな風。森林浴で身も心もリフレッシュできることでしょう。

また、房住山周辺には三種川の源流にあたる扇滝やあずま屋、バターゴルフ場などの施設も充実しています。

こころやすらぐ自然空間
雑踏を忘れてゆったりと過ごす

標高四〇九・二メートルの山頂にある展望台からは、東は奥羽の山並み、西は男鹿半島、日本海を一望できます。

ふもとには休憩施設「ぼうじゅ館」、杉木立に囲まれた宿泊施設「サンサンパークコテージ村」などがあり、週末には町内外から多くの観光客が訪れ、リゾート地として琴丘町のシンボルともいえる観光地となっています。

三十三観音像



房住神社



房住山登山での頂上から

雪解け水が岩肌をつたう(扇滝)

はねがわ森林公園

風に耳をすませば、心身ともに充実感に浸れる空間。

湖面をわたる澄んだ風が
心を自然へと解き放してくれる

羽根川ダムの湾曲した地形を活かした、緑豊かな森林公園です。湖面を見渡せる丘にある「はねがわ湖水館」は、木をふんだんに使ったハート型の建物で、訪れる人々の休憩施設として親しまれています。

自然の中で季節の移ろいを肌で感じ、木々の彩りの変化、男鹿半島から吹く爽やかな風にゆられる湖面、小鳥のさえずり…。ここには日常忘れがちな自然の素晴らしさがいっぱいあります。

ダムの周りには色々な散策路があり、ゆったりと自然を満喫できることと
思います。
子供からお年寄りまで楽しめる森林公園として、人気のスポットとなっております。

過ごし方は色々
思い思いに自分の時間を過ごそう

はねがわ湖水館を中心に、キャンプ場、ファイヤーサイト、炊事場などアウトドアを楽しめる施設が充実しています。野鳥観察、アスレチック遊具、魚釣り、自然散策など楽しみ方は色々。思い思いに、自分の時間を過ごせる憩いの場です。
木々が振りまく、すがすがしい空気を全身に浴び、やすらぎや健康的な幸せを体感することでしょう。



自然のみどり色が美しい散歩道〈散策路〉



アスレチック遊具



はねがわつり橋



にぎわうキャンプ場



金仏梅団地の1,900本もの梅

琴丘・梅物語

小高い丘から風にのってやって来る春の便り…

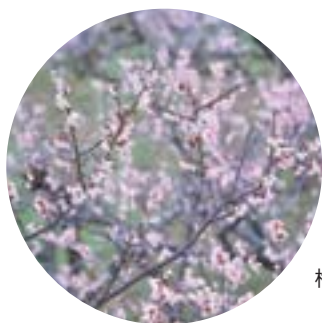
春の風に吹かれ、すくすく育つ
町じゅうを梅の香りが包みこむ

「町の木である『梅』を町いっばいに」という夢を目指して。
金仏ふれあい梅林広場と金仏梅団地では、「春風に香りも高い梅公園」の句が刻まれた記念碑が、千九百本の梅の木の生長を見守っています。
町民一人ひとりが丁寧に植樹しながら思い描いた「いつか町じゅうを梅の香りでいっばいに」という夢。みんなの夢を一身に受けた梅の木は、一步一步、青空高く元気に生長しています。

季節はめぐる琴丘・梅物語

町では、実験ほ場を設け、気候風土に適した「藤五郎」、「越の梅」、「白加賀」などの品種を植樹しました。梅の木はすくすくと大きく生長し、そして収穫され、観光資源や特産品として、町の顔となつていきます。

春の優しい風にのって、小高い丘からほのかな梅の香りが届くころ、琴丘町にも待ちにまつた春がやってきます。
そして、琴丘・梅物語がはじまります。



梅の花



喜びの梅収穫



スポーツ王国

スポーツマンたちの熱気が伝わる町

豊かな自然の中でのびのびプレー

「体育の町」を宣言する当町は、豊かな自然とふれあい、町民が憩い、楽しめるスポーツと文化の拠点施設として、ことおか中央公園スカルパを整備してきました。

公園内には、総合体育館、野球場、テニスコート、多目的広場を備えており充実した施設として広く活用されています。

野球場は、電光掲示板のスコアボード、障害者用のエレベーターなどがあり、七千五百人を収容できます。県内でも有数の野球場として位置し、本格的な野球場で気軽にプレーできるとあって、町内外の人々に愛されています。

総合体育館は平成十六年十一月に完成しました。館内はバスケットコート二面を確保し七百五十人収容できるメインアリーナ、三百六十席の移動観覧席を設置し文化ホールとしても利用できるサブアリーナ、両アリーナから使用できるステージも完備していて、平成十九年秋田わか杉国体のバスケットボール成年男子の競技会場に決定しています。

サブアリーナでは、平成十六年に縄文ページェント「琴の湖」が上演されるなど、スポーツと文化が一体化した総合施設です。

世界にはばたき 世界にチャレンジする

琴丘町は友好的で活動的な人が多く、様々なスポーツが活発な町です。

「おはようジョギング体操」もその一つで、小さな子供から老年寄りまで無理なく気軽に参加することができます。毎年、百日突破した参加者には認定証がおくられます。

「体育の町」にふさわしい琴丘町が世界に挑戦するのがチャレンジジデー。今や世界的なスポーツイベントになったチャレンジジデーには世界三十ヶ国が参加しています。

琴丘町は平成七年から参加し、町民一丸となって様々なスポーツにチャレンジしています。平成十六年のチャレンジジデーでは、七七・三％（四、八一六人）の参加率で見事九年連続金賞を獲得しました。



おはようジョギング体操



チャレンジデー 大綱引き大会



男鹿半島を眺望できる(野球場)



琴丘町総合体育館

祭り

房住山登山

毎年春と秋に行われ、町内外からたくさんの方々が登山者でひとときをにぎやかに過ごします。昭和五十二年には新緑の秋田三十景にも選ばれた房住山。頂上の景色、天然杉やブナの緑、三十三観音像など、房住山の自然を満喫できます。

春の山開きでは下山後、地元自治会から山菜汁がもてなされ、ふるさとの気取らない味が登山者の疲れを癒してくれます。

【開催日】春と秋の二回



はねがわ観光湖水まつり

はねがわ湖水館を中心に周辺のダム湖やアスレチックコースで、演芸大会、ウォークラリー、魚つり競争、カヌー体験教室など、初秋の湖畔を満喫できるのがこの湖水まつりです。

舞台では様々なショーが繰り広げられ、にぎやかな秋の一日を楽しむことができます。

【開催日】九月上旬



KOTOOKA

琴丘郷土芸能

琴丘町内には古くから各地区に伝えられる郷土芸能が、今でも熱心な町民の手によって受け継がれています。

かつては小新沢番楽、落合番楽、二本杉番楽、増浦ささら、上岩川新屋敷ささら等、数多く伝承されていましたが、集落変遷のため現在では山谷ささら、中館番楽、上砂子沢番楽の三つが保存されています。

三つの郷土芸能は、縄文ページェントでも披露され、多くの人々を華麗な舞で魅了しています。

山谷ささら

天和元年（一六八一年）、佐竹義処公が領内巡見の折に、同行した足軽たちによって伝授されたといわれ、先祖の供養、悪霊の排除、雨乞いなどの意味



を持つています。

八月十三日に松庵寺境内で行われています。

イベント



チャレンジデー

運動やスポーツを通じて、人々の『健康』に対する意識を高める、きっかけづくりのイベントです。全国各地の市町村がエントリーして、同じ規模の人口をもつ市町村が競い合います。誰でも、一人十五分間、エントリーしている地域内でスポーツをすればポイントになり、何パーセントの住民がスポーツをしたかを競います。

【開催日】▼五月最終水曜日



縄文ページェント 琴の湖うみ

昭和五十七年、高石野地区に土笛をはじめ、多くの縄文時代の遺物が出土しました。これにちなみ、縄文文化を学び、町の活性化を図るべく、平成七年度に琴丘町誕生四十周年の記念として始まったイベントです。古くから伝承されてきた郷土芸能による「民俗編」と、新たに創作された「縄文編」の構成です。町民六〇〇人以上が参加する手作りの壮大なイベントです。

【開催日】▼十一月中旬



鯉みこし(浜鯉川地区)

鯉川から小舟に乗せた体長一・八mの木彫りのコイは、鯉川橋で滝登りをし、笛や太鼓の音色とともに地区内をにぎやかに練り歩きます。

【開催日】▼五月五日(こどもの日)



鳥追(勝平地区)

上岩川勝平地区に伝わる小正月行事で、子供たちが拍子木を持ち「鳥追いの歌」を歌いながら地区内を一周し、その後、雪中田植えをして豊作を祈願します。

【開催日】▼二月上旬

中館番楽

北秋田郡
阿仁町字根子
の「根子番楽」と同

系のもので約四百年前に獵師によって伝えられたといわれており、山間地に残る土臭い民俗芸能の中に、古代人の情熱をただよわせるとともに、勇壮なマタギと武人の血と面影を伝えています。八月十三日に館村地区で、十五日には中沢地区で行われています。



上砂子沢番楽

中館番楽と同じく北秋田郡阿仁町に伝わる「根子番楽」の流れをくむもので平成三年に地元の若者たちによって三十数年ぶりに復活しました。

この番楽には二十四の舞があつたとされており、全体的に拍子が速く、舞そのものに勇壮さがあり、スピード感があふれているのが特徴です。



ふるさと探訪

アウトドアならここ！

琴丘の歴史にふれる。



歴史民俗資料館 縄文の館

琴丘町では町のいたるところに縄文時代の遺跡があり、出土品も数多く展示されています。中でも高石野遺跡から発掘された怪獣のアシカをかたどったとみられる「土笛」は、今から3,000年前に恋人を呼ぶために使われていたという、ロマンティックな話が残っています。



歴史民俗資料館 三種の館

明治初頭に建てられた中門造の民家で、内部には農具・民具・漁具等が展示されており、先人の知恵と工夫を感じることができます。



羽根川ダム（はねがわ森林公園）

豊かな自然に囲まれて、訪れる人々の心に絶妙な自然美をうつしだす羽根川ダム。散策路やキャンプ場など行楽や休養の場として親しまれています。



サンサンパーク コテージ村

房住山の一角、杉木立に囲まれた閑静なコテージ村。冷暖房完備、バス、トイレ、キッチン用品などの設備も充実しており、別荘感覚で気軽に利用できます。

ふと、たちよる。



土笛



道の駅ことおか

町のもうひとつの玄関ともいえる「道の駅ことおか」には、24時間利用可能の「休憩施設」、毎朝採れたての地元野菜や特産品が販売されている「直売施設グリーンびあ」のほか、食材にこだわりのある「レストラン高石野」、土笛づくりを体験できる体験学習室などがある「琴丘町体験学習物産館サンバリオ」があります。



楽しく集う青春館【JR鹿渡駅】

JR鹿渡駅舎との合築施設で、町内外の若者や各世代の人々が集まり、楽しく利用できるふれあいの場です。ヤッピースペースやミニシアター&コンサートホールなどが話題をよんでいます。

夕日の名所

琴丘稜線

春は
芽吹く木々が。
夏は
青々とした空が。
秋は
爽った田畑が。
冬は
しんとした雪が。
朝は
頬を伝う風が。
夕暮れは
男鹿三山から迫る夕陽。
夜は
全てをすっぽりと包む。
刻々と変化し続ける
琴丘の風景。

特産品

地元の素材を活かし、人々の心を和ませるような逸品揃いです。
琴丘町の特産品をお楽しみください。



琴丘特産梅100%使用
●梅ジュース



恋人を呼ぶ縄文の音色
●土笛



自然の味が生きている
●椎茸うどん



爽やかな味と香り
●ラ・フランスシャーベット



おいしい梅をようかんに
●梅ようかん



手づくりの味
●土笛まんじゅう



甘ずっぱくて、あと味爽やか
●こはじゃソフト
クリーム



八郎湖自慢の
ふるさとの味
●佃煮



まごころのこもった
●豆板醤



昔ながらの味わい
●とろろ昆布



ふるさとの味
●地鶏と
だまこもちセット



手造りだから、^{うまい}馬いんです
●馬肉くん製



特産品なら 直売施設「グリーンぴあ」



琴丘町の特産品がたっぷりの直売施設です。
その外、地元産の新鮮野菜や加工品も豊富に
そろえていますので、ご利用ください。

【問合せ】グリーンぴあ ☎0185-72-2299

やさしい気持ちで笑顔をつくる。

福祉・保健



互いに助け合う 思いやりのある福祉の町

子どもからお年寄りまで町民一人ひとりが、いつでも、どこでも必要な支援、サービスが受けられる形をつくり、生涯にわたって生き生きと安心して暮らせるような、互いに助け合う思いやりのある「福祉のまちづくり」を進めます。保険・医療・福祉・生涯学習の一体的な協働体制を強化し、各世代に応じたきめ細かい健診・検診の充実と受診率の向上に努めます。

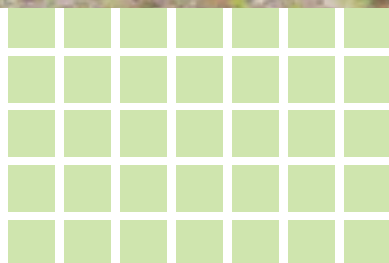
町を担う子どもたちの豊かな想像力と思いやりの心を高めて、心と身体の健全育成を育むため、子育て環境の充実を進めます。そして、働きながら子どもを生み育てられるようなサービスの充実に努めます。それには、町民と行政がいっしょとなった福祉活動が大事であり、学校教育や生涯学習、コミュニティ活動などとおして福祉の心、思いやりの心を育て、「福祉の輪づくり運動」を進めます。

町の高齢化率は現在三一％で、町民の三分の一を占めています。これからは、高齢者の健康維持と生きがいづくりが大切になってきます。高齢者が経験と知恵を活かし社会参加ができるよう、生きがい対策の充実に努めます。

健康づくりや病気予防、適正な医療の拠点施設として、ひまわりセンターや国保診療所、特別養護老人ホーム「希望苑」、やすらぎホーム「希望の家」と連携し、「一人の不幸も見逃さない」ことを合言葉に、町民の健康づくりを推進し、健康管理体制を充実させ、高齢者や障害者が暮らしやすいまちづくりを進めます。



健康で働きつづけられる 産業を育てる町



町の基幹産業である「農業」は、大区画ほ場整備を導入し、水田の乾田化による大豆、そら豆などの複合経営を展開してきました。

これからも、環境にやさしい農業の推進に努めながら、地域全体で農業、農村を守っていかなくてはなりません。足腰の強い農業を実現するために、売れる農産物の生産を図りながら、農業、農村の活性化を進めます。

「梅の里」づくりを推進するため、ほ場整備や加工施設の検討をするともに、PRを行い、「梅の特産化」を目指します。

活気に満ちた町をめざすには、次世代を担う若者が集まり、働く場を確保することが必要です。町民がみんな健康で働き続けられる産業を育てていくために「新しい企業の誘致や起業」「サービスマ産業の育成」「房住山、はねがわ森林公園、総合運動公園、道の駅ことおかななどを活かした観光の開発」「秋田杉など豊富な資源の有効活用」などを進めていきます。

安全は、美しい町のパスポート。

生活・環境

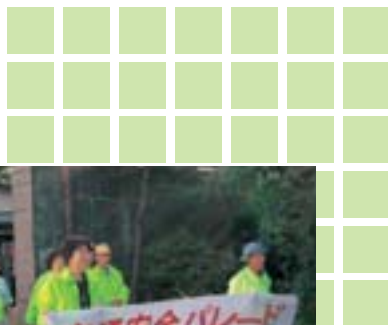


自然に親しむ 美しい生活環境の町

町民一人ひとりが自分たちの手で、森林の緑豊かな自然の美しい町を守っていくという、環境保全意識を強くもつことが必要です。「下水道や浄化槽の普及による水冲洗率の向上」「ゴミ処理対策の充実」「消防・防災対策の充実」など、災害のない安全で衛生的な美しい生活環境のまちづくりに努めます。

また、交通事故をなくし安全な町をつくるため、町民と一体になった交通安全運動、交通安全施設の点検・整備を進め、飲酒運転の追放運動を推進します。

悪質化する消費生活のトラブルや犯罪から町民を守るため、関係団体の連携を強化し、防犯体制の充実に努め、安心して暮らせる地域づくりを目指します。





ITで夢広がる 安全で快適な町

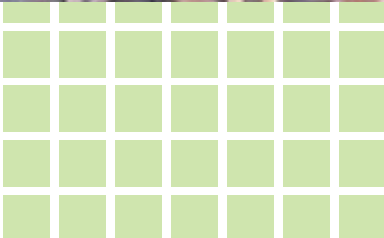


急激に進む高度情報化社会に対応し、情報通信のインフラ整備を進め、町にいなながら国内のみならず世界的な空間が広がるインターネットを活用しながら、特産品や観光など地域の情報を積極的に発信します。そして、日常にかかせない携帯電話は、不感地域の解消を図るため、取組を強化します。

「高速道路の有効活用」「八郎湖サービエリアの整備促進」などを進めながら、国道7号線にある「道の駅ことおか土笛の里」を地域の情報発信の場として活用します。

また、町道についても改良整備、除排雪の充実など、子どもや高齢者にやさしい安全・快適な道路づくりを進めます。

「町の豊かな自然」を活かした町民の憩いの場、レクリエーションの場として公園・緑地の確保や水辺環境の整備、上下水道の充実等に努め、快適な生活環境づくりを進めます。



どこまでも夢を追って。

教育・生涯学習



学びつづける心を 育む町

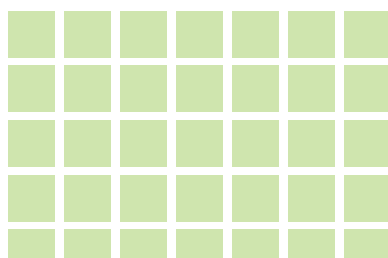
健康で大胆な発想と行動力を持った人材は、活気に満ちあふれた琴丘町を築く上で基礎となるものです。

学校施設や教育内容の充実と児童・生徒一人ひとりの個性を伸ばしつつ、人間性を育む学習や活動の充実を図ります。また、ふるさと教育や福祉教育の充実など、児童・生徒の社会参加を促進し、ふるさと意識の向上とリーダーの養成を図ります。

中央公民館を中心にして、学習者のニーズの把握や生涯学習情報の提供、ネットワーク化など、生涯学習推進体制の整備・充実を図ります。

また、町では国際理解教育を推進するため、ALIT（外国語指導助手）を通じて生きた英語を学びます。

平成十九年には秋田わか杉国体成年男子バスケットボール競技が当町で開催されるので、組織強化・育成、指導者の養成を図るとともに、町民が一丸となり、成功を目指します。



町を守る顔があります。



副議長
嶋田 則 男



議 長
田村 圭 三



教育長
岡 正 英



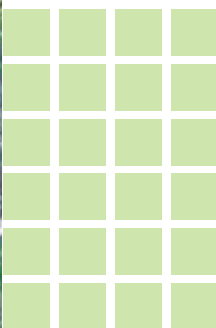
助 役
近藤 一 男



町 長
工藤 喜久 男



町民と共につくる協働の町



「豊かな自然を守り豊かな心を育む町・琴丘」をめざし、まちづくりの主役である町民が、「自らの地域は自らが築く」という思いを持って取り組むことが重要です。

町民・各種団体・行政がそれぞれ自主性・自立性を尊重し、互いに協調しながら個性的で魅力的な地域づくりを推進します。

そして、女性の参画機会を拡大しながら、男女共同参画社会の実現に努めます。

町議会は十六名の議員で構成されています。町の計画・予算・条例等を審議するとともに、町の議決機関として、町民の声を十分に反映させながら、町の進路を決定します。

議員は総務・教育民生・農林建設・議会運営・議会広報編集の各委員会に所属し、各分野で審査や調査活動を行っています。



町章

琴丘町の「コト」を図案化したもので、円は共同・協調・平和・愛町の精神を意味し、突き出た部分は町の躍進を表しています。【昭和37年制定】

琴丘町町民憲章

わたしたちは、琴丘町民であることに誇りと責任をもち、明るく豊かなまちをつくるために、進んでこの憲章を守りましょう。

- 健康で働き、豊かなまちをつくりましょう
- きまわりを守り、住みよいまちをつくりましょう
- あたたくく交わり、明るいまちをつくりましょう
- 環境をととのえ、きれいなまちをつくりましょう
- 教養を高め、文化のまちをつくりましょう

(昭和四十六年五月制定)

琴丘町町制施行三十周年記念

琴丘町民の歌

小玉 千代世 作 詞

(琴丘町町民歌制定委員会補作)

服部 良一 作曲・編曲

一、朝風かおる 房住の

歴史の山を 仰ぎ見て

三種の流れ わくところ

緑の美林 育ち行く

ああ躍進の わが郷土

二、明るく陽光 降り注ぐ

黄金の稲田 広々と

共に生産 励み合い

恵みの大地 拓きゆく

ああ発展の わが郷土

三、夕映えはるか 男鹿の山

希望の星を 遠く見て

心豊かに 睦みあい

住みよい琴丘 築きゆく

ああ繁栄の わが郷土

町の木



梅

寒さに強く、春を告げて花を咲かせ実をつけるなど、雪国にふさわしい樹木である。これまで町では全町に広めようとして植栽を奨励した経緯もあり、町の緑化推進運動として全家庭植栽も行っているなど、町には親しまれており、明日を拓くわが町にふさわしい木である。(昭和60年9月制定)

町の鳥



セキレイ

セキレイには三種あるが、本町には三種とも、どこにもみられる。優美で独特のふん囲気をもっている。さわやかな田園の町を目指しているわが町にふさわしい鳥である。(昭和60年9月制定)

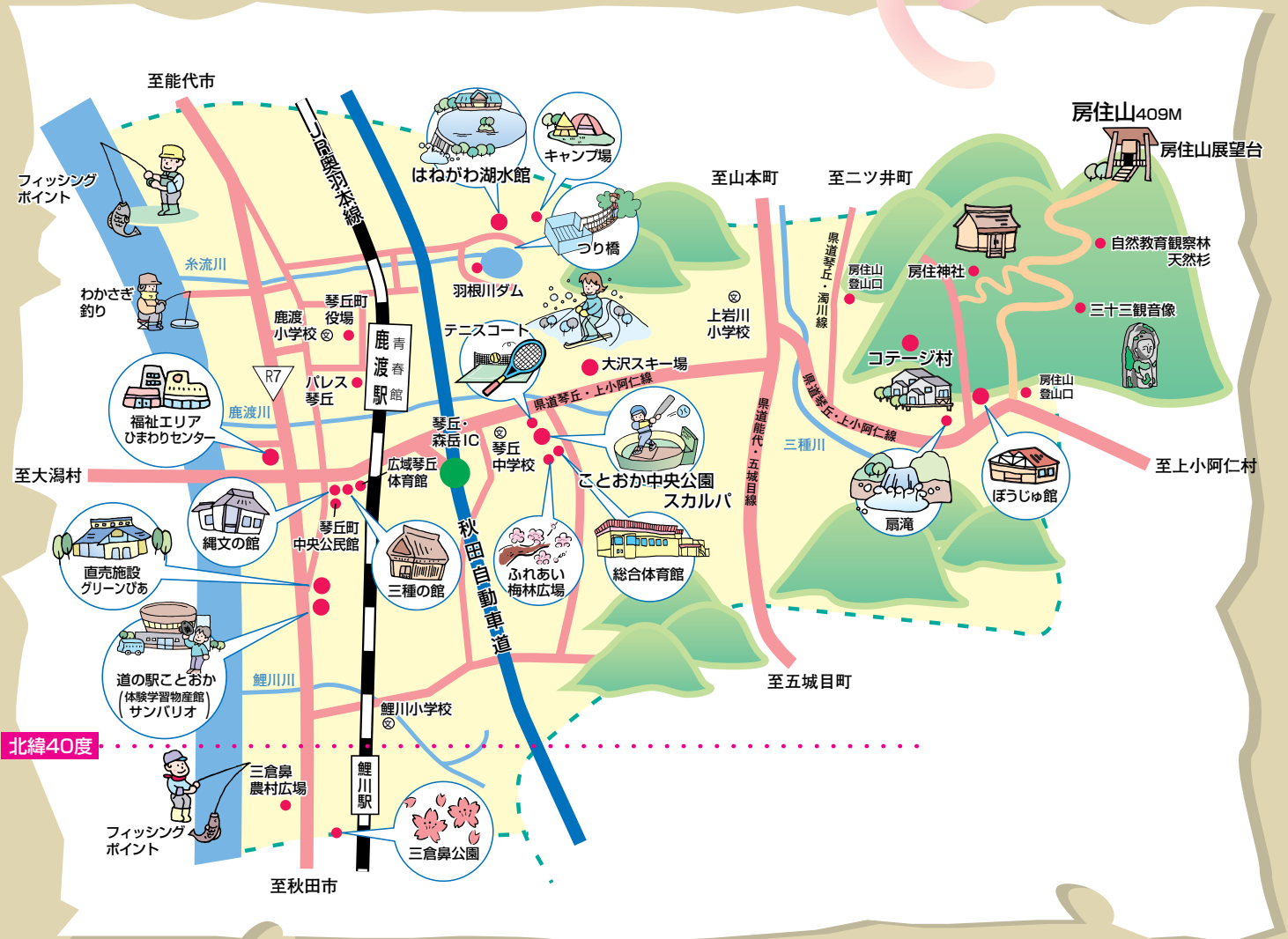
町の花



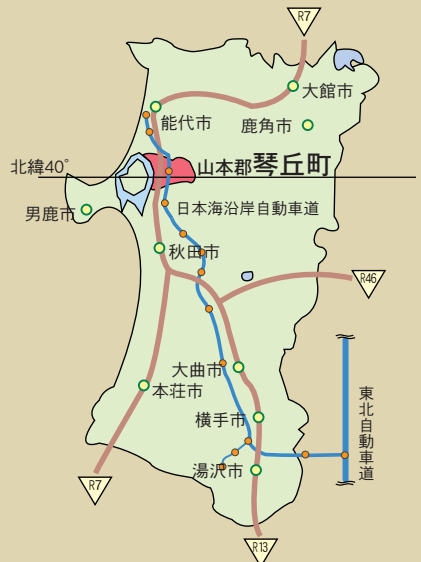
山つつじ

生命力の強い樹木であり、その花は素朴で情熱的な朱や紅で、町の景観のいどりとなっている。町民あげて健康で活力に満ちた町づくりにまい進しているわが町にふさわしい花である。(昭和60年9月制定)

ことおか見どころMAP



北緯40度



交通のごあんない

JR

東京駅 → 秋田駅 (普通列車で40分)

仙台駅 → 秋田駅

バス・車

秋田駅 → 秋田駅 (車で1時間)

秋田駅 → 仙台 (3時間30分 仙秋号)

秋田駅 → 新宿 (8時間30分 フローラ号)

飛行機

羽田空港 → 秋田空港 (1時間)

名古屋空港 → 秋田空港 (1時間10分)

関西空港 → 秋田空港 (1時間30分)

千歳空港 → 秋田空港 (55分)

秋田空港 → 秋田駅 (バス)

秋田駅 → 琴丘森岳IC (5分)

秋田駅 → 昭和男鹿半島IC (15分)

秋田駅 → 秋田南IC (20分)

秋田駅 → 横手IC (45分)

秋田駅 → 湯田IC (20分)

秋田駅 → 北上JCT (20分)

秋田駅 → 東北自動車道

琴丘町は、町の西部をJR奥羽本線と国道7号線が平行して縦走り、県都秋田市まで約40km、能代市まで約20kmのところにあります。

秋田県琴丘町

平成17年3月発行

〒018-2104
秋田県山本郡琴丘町鹿渡字東二本柳29-3
TEL 0185-87-2111・FAX 0185-87-2132

編集・発行/琴丘町企画課
印刷/株式会社八郎潟印刷